

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1276800081		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホーム だるまさん		
所在地	千葉県長生郡長生村宮成3496		
自己評価作成日	令和6年2月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令6年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が日々生き生きと生活することができるよう、ご利用者個々の心身の状態に応じて、自身の力を発揮できる環境づくりをしています。地域の環境を活かし、隣接の村総合公園への散歩や畑での野菜作りと収穫、園芸作業を通じて、楽しみながら身体を動かす機会を提供しております。また、家庭的な雰囲気を感じていただけるよう、ご利用者と共に行う食事の自炊や、おやつ作り、夕方から入ることができるお風呂、ゆったりした時間と空間を提供しております。

認知症やその他の疾患を患い、障がいがあっても、ご利用者が「自分らしさ」を保ちながら「安心」して生活できるように職員は取り組んでいます。また、災害時、備蓄品の確保や非常用電源を確保する事で、ご利用者の安心に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームだるまさん」は、施設内にデイサービスが併設しており、行事やイベント等で交流を通して、心身や生活の活性化を図っている。看護師を配置していると共に、デイサービスの看護師とも連携を図りながら、健康管理・服薬管理・医療面における相談や対応等が行われており、入居者や家族の安心に繋がっている。今年度から夏祭りを再開しており、ボランティアや地域の人達が大勢参加し祭りを盛り上げ、地域交流の活性化に取り組んでいる。また、地域のながいきフェスタに出店しており、ゲームのブースと共に、介護相談窓口を設けており、認知症ケアの専門性を活かした地域貢献に努めている。人材育成の貢献として、実習生や中学生の職場体験の受け入れも行っている。その他にも、毎月企画されるイベント食・季節ごとのお楽しみ会・デイサービスとの交流の他、お花見・紅葉見学・初詣・地域の催し物への参加等、行事や外出も充実しており、入居者の気分転換や生活の活性化に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基にした事業目標・計画を作成し、達成に向けて取り組んでいる。日々のケアを行う場面やユニットカンファレンス、申し送り等で進捗状況を確認し合い、取り組んでいる。	安心に基づく介護」「アイデアを生かした柔軟な介護」「七転び八起き」の精神を主眼とした法人理念を掲げ、施設内に掲示している。また、パンフレット・ホームページ・法人の広報誌等に掲載し、内外の人達への周知を図っている。日々理念については、申し送りやユニットカンファレンスにて実施状況の確認を行う等、全職員が理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。その他にも、年度毎に全職員が理念を基に「ワートレ標語」という目標を掲げ、朝礼に唱和しており、理念を意識した支援の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類に移行し、感染対策の緩和がされているが、コロナ禍前の様な状態には戻っておらず。積極的な地域住民との交流は控えている。畑作業や買い物、ゴミゼロ運動参加の際には地域の方々との交流がある。	日頃から、近隣住民とは散歩やごみゼロ運動等の参加を通して、良好な関係を築いている。今年度から夏祭りを再開しており、ボランティアと地域の人達が参加する盛大なイベントで、外部の人達への施設理解の促進に加え、入居者の生活の活性化に繋がっている。また、地域のながいきフェスタへ参加が恒例となっており、ゲームのブースと共に、介護相談窓口を設けており、認知症ケアの専門性や実践経験が活かされた活動となっている。その他にも、人材育成の貢献として、実習生や中学生の職場体験の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民が多数来場されるながいきフェスタでは、来場者にむけて気軽に介護に関して相談できるよう、介護相談とゲームのブースを設置した。運営推進会議では、地域住民へ認知症の利用者の現状等を報告する事で認知症の理解が広まるよう配慮した。		

【千葉県】グループホームだるまさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活状況や活動状況を分かりやすく伝える為に、動画の作成をし、報告している。意見、提案として挙げたものは、検討後に導入することもある。例)感染症対策で使用後のスリッパの消毒実施や地域のグランドゴルフ参加等	村職員・地域包括支援センター職員・民生委員・地域住民・家族・施設職員等を構成員として、年3回、運営推進会議を開催している。会議では写真やスライドショー等を活用しながら施設活動の報告や意見・情報交換等を行い、施設の理解促進に努めている。会議開催にあたり、イベントと同時開催する等、会議の形骸化防止・参加者との協力体制の強化・出席率の向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員の来所時(認定調査等)、入所の相談時等に事業所の取り組みや現状を伝えている。また役場にだるまさんの広報誌を設置したり、地域包括支援センターのセンター長に直接広報誌をお渡ししている。	日頃から行政に対して、業務上の相談や報告を行っており、施設の実情やケアサービスの取組を伝えている。外房連絡会やケアマネ協議会に参加しており、連絡会を通じて、行政と意見・情報交換を行い、協働でサービスの質の向上に取り組む体制を構築している。その他にも、村からイベントの出店依頼、入所相談等通して、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	16:00～翌8:00までは、防犯の為玄関の施錠を行っているが、それ以外の時間帯は、身体拘束の観点からも施錠していない。身体拘束廃止委員会を中心に、定期的に身体拘束が行われていないかの確認をしている。	身体拘束排除における指針を整備すると共に、玄関に掲示し、内外の人への周知に努めている。また、検討委員会を定期的で開催し、ケアの振り返りを行うと共に、事例検討を通して理解浸透を図っている。身体拘束排除に関する内部研修においては、同法人の通所介護・訪問介護・居宅支援事業所と合同で実施しており、法人全体で身体拘束の無い支援を目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は内部・外部研修で高齢者虐待について学ぶ機会がある。又、新人職員へは身体拘束・虐待についての動画を見てもらい理解に繋げている。職員へのメンタルヘルスにも着目し、研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に外部、内部研修に出席し、理解を深めている。研修に参加した職員がカンファレンス内等で他職員へ水平展開し学べるようにしている。		

【千葉県】グループホームだるまさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際は管理者が必ず同席し、サービスに関しての説明を行っている。意見や質問等は24時間受け付けていることを伝え、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や外部評価を用いて、利用者や家族が意向を表せるようにしている。又、面会時などにも家族とコミュニケーションを図り、要望や意見を言いやすい雰囲気づくりを意識している。玄関には意見箱も設置している。	家族の面会時や電話連絡にて家族の意見・要望を直接確認している。また、意見箱の設置や運営推進会議を活用し、意見の言い易い環境作りに取り組んでいる。定期的に、手紙で日々の様子を写真で伝えると共に、3か月に1回「だるまさん新聞」を発行し、施設活動を報告する等、施設の透明性確保及び施設理解の促進に繋げている。その他にも、イベント開催時に行事案内を郵送しており、家族との関わりを大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の合間やカンファレンス等で職員の意見・提案を聴き、意見が反映される体制づくりをしている。特にカンファレンスでは活発な意見交換が行われている。申し送りノートにも随時職員からの提案事項が挙がっている。	申し送りノートや定期的なカンファレンスを活用し、職員からの意見や提案を確認している。挙がった意見や提案は、月1回管理者による運営戦略会議で検討し、運営に反映させており、組織的な体制が整備されている。定期的に管理者による個別面談を実施しており、職員一人ひとりの目標・希望・人間関係等を把握している。内部・外部研修が行われており、適切な人材育成に取り組むと共に、研修報告の発表や閲覧の機会を設ける等、全職員が研修内容を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夏季・冬期面談では職員個々に個人目標の設定をしてもらい、目標達成に向け取り組んでいる。又、悩みや相談・要望等も聴き、職員のメンタルヘルスにも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修や外房連絡会(施設長が運営)の研修、その他外部研修など学べる機会は多い。都度必要だと思われる職員へは参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は地域密着型外房連絡会会長としての運営や介護人材確保対策事業の一環の研修を企画・開催している。研修に参加される他事業所の職員との交流の場ともなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前は家族だけでなく、本人のお話を傾聴し、まずは顔を覚えてもらう事から始めている。認知症の方への支援は特に信頼関係の構築が最重要だという事を職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が契約前にご家族とサービス利用について話し合いの場を設けている。話し合った内容は職員間で周知している。お一人お一人の要望には、柔軟に対応する姿勢をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のアセスメントを行い、ご家族の要望を踏まえ適切なサービス、支援を提供出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の自発的な行動を尊重し、力を発揮できるように配慮している。他者との生活の中で助け合いながら、掃除、洗濯、自炊、散歩、畑仕事、園芸、機能訓練、余興活動等を行い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナが5類に移行後、面会を再開している。(玄関にて)病院への定期受診や、日用品の買い物等は基本的にご家族へ依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会再開後は、馴染みの方(家族・知人)が面会にいらしている。入所前に通っていたグランドゴルフクラブに、再度通うようになったご利用者がいる。	友人・知人の訪問は自由となっており、馴染みの関係継続に配慮すると共に、家族との外出も可能で、家族関係継続も支援している。また、地域行事への参加・施設行事への地域住民の招待・併設の通所介護事業所との交流等、地域の人との関係継続及び新たな関係構築の機会となっている。その他にも、グランドゴルフクラブの参加・お歳暮のやり取り等、入居者一人ひとりの習慣・生活歴・思いに配慮しながら、支援方法を工夫する等、その人らしい暮らしが継続ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が協力し、助け合いながら家事等を行う様子が見られている。また、居室を行き来し合い交流されるご利用者がある。職員の過介護にならないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご利用者、ご家族から要望があれば、相談等対応している。自宅復帰した利用者への助言・アドバイスをを行った実績がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員個々が勝手に判断せず、ご利用者の自己選択、自己決定を尊重している。ご利用者の日々の様子、要望を記録し職員間で情報共有している。	サービス開始にあたり、本人や家族から意向・生活歴・身体状況の確認を行うと共に、医療機関や他事業所からの情報収集にも努めている。また、日頃の生活観察や会話等から意向や思いを汲み取っている。記録や会議を活用しながら、職員間で意見交換や情報を共有する等、入居者本位のサービス提供に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者やご家族から、現在に至るまでの生活歴、生活環境、価値観等を情報収集し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態、様子を毎日記録し、日々の変化を職員間で共有している。状態の変化に応じて、適切な支援を提供できるよう対応している。又、些細な変化にも気付けるようにバイタル、食分量、水分量、排泄を記録し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的見直し以外にもご利用者の状況や状態に合わせ、介護計画を見直している。定期的にカンファレンスを実施し、チーム全員の意見を集約し、プランに反映させている。	本人や家族を交えた話し合いを行い、意向を把握した上で介護計画の作成を行っている。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行っており、定期または必要時に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や細かな変化を記録し、情報共有を行っている。個人記録、業務日誌、申し送りツール(タブレット・ノート)、メモ等を活用し、伝達・共有漏れがないよう留意している。		

【千葉県】グループホームだるまさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者のキーパーソンが高齢で、キーパーソンが困難な事(必要な物品準備や保険の調査の立ち合い)を代理で行う等、柔軟に対応する姿勢をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防の為、外部との積極的な接触を避けながら、ドライブや散歩、畑・園芸作業を通じ生き生きと生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入所以前からのかかりつけ医を継続して受けられるようにしている。入居者の状況によって、ご家族と相談し、各専門医への受診をしている。希望ご利用者は地域のクリニックの医師が毎月往診にきている。	希望の医療機関への受診を家族と協力しながら支援している。月1回の内科医による往診や週1回の歯科の往診を実施している。また、必要に応じて随時往診が行われており、適切な医療支援に努めている。協力医療機関とは、24時間連絡が可能となっており、緊急時や急変時における協力体制を構築している。看護師を配置しており、健康管理・服薬管理・医療面における相談や対応等が行われており、入居者・家族・職員等の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは日常的に申し送りツール(タブレット・ノート)活用や口頭で連携を取っている。看護師の専門的な視点から、受診が必要と判断された場合は家族と相談し、医療機関への受診に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時に、病院へご利用者の情報提供を行っている。又、退院に向け医師、SW、家族と相談、連携している。退院後の施設への受け入れ、提供できるサービスを家族に伝え、トラブルにならないよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末期についての指針を説明し同意を得ている。終末期の対応について事業所で対応できること、できないことを明確に家族に説明し、対応出来ない際は受け入れ先の病院、施設の調整を家族、関係者で行っている。	重度化・終末期における施設の方針を明文化しており、入居者・家族への意向確認及び同意を得ている。重度化においては、医師と24時間連絡が可能となっており、連携体制を構築している。終末期の対応については医療機関との連携による適切な対応に繋がっている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを備え、事故発生時に対応している。又、応急手当普及員の資格を持った職員による、救急時の対応についての勉強会を実施した。AEDはGH内に設置されており、常時使える状態にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に事業所で避難訓練を実施している。行政と連携し、福祉避難所にも指定されており、災害時の受け入れ態勢を築いている。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報装置等の消防設備を設置していると共に、災害時の備蓄品や防災倉庫も備えている。消防避難自主訓練を年に2回実施しており、日中や夜間を想定した訓練や消火器・通報訓練等を実施し、災害時の対応を身に付けている。尼ヶ台南部自主防災組織へ加入し、副会長及び事務局を担っている。又、長生村福祉避難場所の指定を通じて、災害時における地域との協力体制も構築している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族に個人情報の取り扱いについては説明し同意を頂いている。職員は法令順守や秘密保持に関する説明や同意を入職時のオリエンテーションや内部研修を受講し理解を深めている。	プライバシー保護や接遇に関する研修を定期的実施しており、入居者一人ひとりのプライバシーと尊厳を大切にしている。また、個人情報保護についても、研修・会議等を通して周知徹底を図っている。日常生活では、入居者個々に合わせた言葉掛けや支援に努め、その人らしい生活の実現に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に、利用者への支援や活動提供の際には、利用者自身が選択・決定できるような声掛けをし、配慮している。また、おやつのおつたりとした時間等にご利用者とのコミュニケーションの中で、思いや要望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の状態に合わせて静養の時間を設けたり、食事の提供時間をずらしている。また、レクリエーションやリハビリ等の参加も本人の意思決定を尊重し、参加の可否を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関しては、利用者や家族が準備した物を利用者が選んでいる。利用者と共に買い物に行き、利用者自身で選び購入することもある。		

【千葉県】グループホームだるまさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや食事の下ごしらえ、食器の片付け等、日常的に行っている。献立も利用者の嗜好に合わせて作成し、食べられない物がある場合は別メニューに変更し提供している。旬の食材を取り入れたり、だるまさんの畑の収穫物を使用する事もある。	毎日の朝食と土日はグループホームが食事を準備し、それ以外は施設内の厨房から食事提供がなされており、栄養バランスに配慮した食生活の支援が行われている。また、入居者の希望や身体状況に応じて、食事の片付けを職員と共同で行っている。定期的に行事食や手作りおやつ等を企画・実施していると共に、季節の食材や入居者の嗜好に配慮しており、食に対する様々な楽しみを提供している。その他にも、施設内の畑で収穫された野菜を活用することもあり、入居者の楽しみや喜びを引出している。外食会は見合せているが、お寿司やお弁当のテイクアウトを活用し、外食気分を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態によって、1日の水分摂取の目標値を設定し、量を測定している。1日3食に囚われず、状況によって食事時間以外に食べ物を提供することもある。(認知症の症状への配慮)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医と連携し、歯科医指導のもと、毎食後に口腔ケアを行っている。口腔内の状態に応じて訪問歯科を受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに応じて誘導や声掛けを行っている。主治医、看護師と連携を取りながら下剤等の調整を行っている。	個々の排泄チェックリストを活用して、一人ひとりの排泄状況及びパターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にて排泄の自立に向けた支援を行っている。また、水分補給や乳製品の摂取に加え運動を取り入れる等、自然排便を促す工夫がなされている。必要時には、医師や看護師に随時相談をしながら適切な排便コントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的にヨーグルトの摂取をしている。便秘が続いている利用者にはスムージー等を作り提供したり、乳製品の摂取、運動の推進等、意識的に取り組んでいる。		

【千葉県】グループホームだるまさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴頻度は令和5年12月までは希望者に毎日実施。 令和6年1月以降は週5日を基本とし、ニーズの高いご利用者は従来通り毎日入浴できる体制を取っている。可能な限り、利用者個々の入りたいタイミングで入浴して頂いている。	入浴は週5回行っており、入居者の希望や体調に応じて、柔軟に対応している。必要に応じて、シャワー浴・清拭・部分浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。また、季節の果実や草花を活用し、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度に日中は個々の要望に応じて休息し、夜間は好きな時間に寝るように臨機応変に対応している。また、日中の適度な活動、夕方からの入浴・室温・掛け物・明かりの調整を行い、気持ち良く眠れるように環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の種類・副作用をまとめた薬表を各ユニットに設置し、周知、理解に努めている。薬の変更があった際は、服用前後の様子を申し送りツール(タブレット・ノート)等を活用し、共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑、園芸作業、散歩、買い物、調理(お菓子作り)、体操や機能訓練、レクリエーション等、多様な活動を通して利用者が充実した時間を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の庭や隣の公園へは定期的に出ている。感染症予防の為、人が混雑する場所への積極的な外出は控えており、家族にも協力を頂いている。コロナ対策をとる以前は、本人の希望でお墓参りや入所以前に住んでいた場所へ外出する事もあった。	日頃から、散歩・買い物・ガーデニング・ドライブ・お花見・紅葉見学・初詣等を実施しており、戸外での楽しみを支援している。また、地域のイベントへの参加や併設施設との交流と共に、体操等の機能訓練や施設内レクリエーションの充実等、様々な活動を取り入れ、入居者の気分転換や生活の活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望がある場合は、所持する事での事故のリスク等を説明し、お金を所持・使用できる環境を作っている。定期的にパン屋、移動スーパーが来所し、ご利用者が買い物している。		

【千葉県】グループホームだるまさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の要望に応じて、ゆっくり電話が出来る環境がある。また、居室には電話の回線が入っており、希望者には電話の設置も可能な体制をとっている。携帯電話を使用しているご利用者やご家族へ手紙を送ったり、知人に贈り物をされる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生的で、整理整頓された空間づくりを意識している。また、季節に応じた飾り付けや掲示物をして、季節感の演出をしている。	施設内はバリアフリー環境が整っており、入居者の安全面に配慮した設計となっている。施設の共有スペースには、椅子・テーブル・ベンチ等が設置されていると共に、リビングの天井は吹き抜けになっており、広々とした自由にくつろげる居住空間となっている。また、ユニット間の廊下は80mあり、機能訓練に活用されている。施設内には、季節の飾り付け・入居者の作品や写真等が掲載されており、楽しい雰囲気作りがなされている。他にも、年初めに入居者全員で目入りを行っただるまが随所に飾られており、入居者の幸福を見守っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士で話せる様に、席やテーブルを配置している。また、外の景色をゆっくり眺められる場所には椅子等を設置して、各々が自由に過ごせる工夫をしている。ユニットやペランダも自由に行き来出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、自宅で使用していたものや、馴染みのある物を継続して使用できるよう配慮している。	居室はクローゼットが備えられ、入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具や写真等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が出来るような環境づくりに努めている。また、冷暖房完備で洗面台も備えられており、利便性に優れた住居となっている。センサー等の活用や居室内の配置の工夫により、安全・安心に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室等は看板、表札、のれん、写真でさりげなくご利用者がわかるようにしている。場所によっては、プライバシーに配慮しながら、戸を少し開ける工夫やセンサー等の活用をしている。		